

目次

1.	平成 28 年度 水管理・国土保全局関係予算概算要求の概要	1
2.	水管理・国土保全局関係予算の項目毎の内容	5
	2-1 治水事業等関係費	5
	2-2 東日本大震災からの復旧・復興関係費	15
	2-3 下水道事業関係費	16
	2-4 行政経費	19
	2-5 独立行政法人水資源機構	21
	2-6 ストック効果を最大限に発揮させる取組	22
3.	新規要求事項	24
<参考>			
(1)	平成 27 年度の水害・土砂災害等	27
(2)	暮らしと経済を支える治水事業等 ～インフラのストック効果～	29
(3)	水災害分野における気候変動適応策のあり方	33
(4)	水防法の一部改正	34
(5)	下水道法、日本下水道事業団法の一部改正	35
(6)	土砂災害警戒区域等の指定状況	36
(7)	水循環施策の推進	37
(8)	水分野における国際戦略	38
(9)	ミズベリング・プロジェクトの取組	39
(10)	東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	40
(11)	東日本大震災からの復旧・復興の進捗状況	41
(12)	平成 28 年度「東日本大震災復興特別会計」水管理・国土保全局関係予算概算要求総括表	42
(13)	平成 28 年度 水管理・国土保全局関係予算概算要求総括表	43

(9) ミズベリング・プロジェクトの取組

水辺に対する関心を更に高め、「まちの価値を高めるための資源」として活用されるよう、民間活力を積極的に引き出し、人々を魅了する風格を備えた水辺空間を、まちづくりと一体となって創出する。

○ミズベリング・プロジェクトの背景と基本コンセプト


<我が国の河川の課題>
 高度経済成長期を経て、多くの都市河川は開発と効率を重視した排水路と化し、街並みからも背を向けられる状況

水辺を「つくる」だけでなく「育てる」ための3つのコンセプト


- ①水辺空間の賢い利用
- ②積極的な民間投資の誘導
- ③市民や企業を巻き込むソーシャルデザイン

<今後の水辺の可能性>
 個々の川が持つ豊かな自然や美しい風景を活かした魅力ある水辺空間をまちづくりと一体となって創出

土佐堀川（大阪市）



川とまちを遠ざけていた堤防




水辺の風景をつくる「北浜テラス」

○ミズベリング・プロジェクトの展開

ミズベリングは「水辺+RING(輪)」、「水辺+R(リノベーション)+ING(進行形)」の造語。市民や企業、行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを生み出すムーブメントを次々と起こす取組。

全国各地で水辺とまちの未来を創造する様々な動きが始まっている。

全国で広がるミズベリングの動き



(H27年7月時点)

【例】富士川水系（山梨県笛吹市及び富士川町）での取組

富士川水系では、ミズベリング・プロジェクトとして、地方公共団体、大学、旅行会社等と連携した人材育成、観光振興に取り組み始めた。大学生が自ら立案した観光まちづくりプランを競う「大学生観光まちづくりコンテスト」等を通じて、地域資源の掘り起こし、地域の観光ビジネス振興等が期待されている。



旅行会社が実施するコンテストで観光企画を考える大学生